

なまはげ館：解説 面について

ここに展示されているお面のほぼすべてが年月の中で実際に使用されてきたもので、うち 30 は今でも大晦日にナマハゲ行事で着用されます。中には 200 年以上前の物もあるこれらの衣装はそれぞれ大きく異なることに気が付くでしょう。これは木や木の皮、紙粘土、合板、ブリキ、プラスチック等、様々な材料から作られているためです。各村落の住民は伝統的に何でも手に入るものを使ってナマハゲのお面を作ってきたため、完成品の仕上がりはとりまく自然環境に影響されました。例えば、ほとんどのお面の髪の毛は馬毛か麻の繊維でできていますが、海沿いの村ではよく海藻が使われます。他の地元民は縄や人毛すらも使いました。

ナマハゲは時に秋田中のお土産店で売られている、繊細な彫りと塗りが施された木製のお面と関連付けられることがありますが、それらは元々観光目的で作られたもので、厳密には伝統的なものではありません。ただかなり丈夫なため、村によっては大晦日の実際のナマハゲ行事で、ナマハゲが家を出入りする際に扉の枠で頭を打つなどして壊れやすい伝統的衣装の代わりに使っているところもあります。